

厚生労働科学研究費補助金
(難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患等実用化研究事業
(免疫アレルギー疾患等実用化研究事業 免疫アレルギー疾患実用化研究分野)))
分担研究報告書

アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの作成

研究分担者 加藤 則人 京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学 教授

研究要旨

皮膚科診療を専門とする医師を対象として、新たに公表された臨床研究データと既存のガイドラインとの関連性についてレビューし、これまでの推奨の根拠となっているエビデンスをより強化するなど存在するエビデンスギャップを埋める診療ガイドラインを作成することを目指している。これまでに合計 6 回の作成委員会を開催し、重要臨床課題を 20 件程度設定し、文献を検索し、エビデンスの評価と統合で求められたエビデンスの強さ、益と害のバランスのほか、患者の価値観の多様性、経済学的な視点も考慮して、推奨とその強さを決定した。また、これらのエビデンスをもとにした解説文を第 1 章として記載し、第 2 章には構造的抄録を付記した診療ガイドラインを作成している。

研究協力者

佐伯 秀久 日本医科大学皮膚科学
教授
中原 剛士 九州大学医学研究院
体表感知学講座准教授
田中 暁生 広島大学大学院
医歯薬保健学研究院
皮膚科学助教
椋島 健治 京都大学大学院
医学研究科皮膚生命科学
講座准教授
菅谷 誠 東京大学大学院
医学研究科皮膚科学
准教授
室田 浩之 大阪大学大学院
医学系研究科情報統合医学
皮膚科学准教授
海老原 全 慶應義塾大学医学部
皮膚科准教授
片岡 葉子 大阪府立呼吸器・アレルギー
医療センター皮膚科
主任部長
相原 道子 横浜市立大学大学院
医学研究科環境免疫病態
皮膚科学教授

江藤 隆史 東京通信病院
皮膚科部長
益田 浩司 京都府立医科大学大学院
医学研究科皮膚科学講師
峠岡 理沙 京都府立医科大学大学院
医学研究科皮膚科学助教

A . 研究目的

アトピー性皮膚炎は、科学的なエビデンスに基づく治療によって自然寛解も期待される疾患である。皮膚科診療を専門とする医師を対象として、新たに公表された臨床研究データと既存のガイドラインとの関連性についてレビューし、これまでの推奨の根拠となっているエビデンスをより強化するなど存在するエビデンスギャップを埋める診療ガイドラインを作成することを目的とする。

B . 研究方法

重要臨床課題を基に患者にとって重要なアウトカムを改善するために必要な問題を重要臨床課題として設定し、Medline,

Cochrane Library, 医学中央雑誌を用いて文献を検索し、エビデンスレベルの評価と統合で求められたエビデンス総体としてのエビデンスの強さ、益と害のバランスのほか、患者の価値観の多様性、経済学的な視点なども考慮して、GRADE システムを参考にして推奨とその強さを決定したものを第 4 章とする。メインアウトカムは、益として皮疹（医師の評価、患者の評価）、かゆみ、QOL、再燃回数、害として治療や検査などによる有害事象と無治療による有害事象とする。また、アトピー性皮膚炎の診療に重要な項目の解説文を第 1 章とする。

C . 研究結果

これまでに計 6 回の作成委員会を開催し、重要臨床課題を基に患者にとって重要なアウトカムを改善するために必要な問題を重要臨床課題として 20 件程度設定し、文献を検索し、エビデンスの評価と統合で求められたエビデンスの強さ、益と害のバランスのほか、患者の価値観の多様性、経済学的な視点も考慮して、推奨とその強さを決定した。また、これらのエビデンスをもとにした解説文を第 1 章として記載し、第 4 章には構造的抄録を付記した診療ガイドラインを作成中である。

D . 考察

アトピー性皮膚炎の患者が、その居住する地域にかかわらず等しく科学的見地に基づく適切な医療を受けることができるようにするためのリソースになるガイドラインを作ることは、喫緊の課題である。今後、アトピー性皮膚炎の診療の均霑化のためには、アトピー性皮膚炎の診療に携わるすべての医師が用いることを想定した新たなガイドラインの作成を視野に入れて準備を進めていくことが必要と考える。

E . 結論

新たに公表された臨床研究データと既存のガイドラインとの関連性をレビューし、エビデンスギャップを埋めた診療ガイドラインを作成している。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表（平成 26 年度）

< 論文発表 >

1. Daito J, Harada Y, Dai P, Yamaoka Y, Tamagawa-Mineoka R, Katoh N, Takamatsu T: Neutrophil Phagocytosis of Platelets in the Early Phase of 2,4,6-trinitro-1-chlorobenzene (TNCB)-induced Dermatitis in Mice. **Acta Histochem Cytochem**, 47 (2), 67-74, 2014.
2. Tamagawa-Mineoka R, Okuzawa Y, Masuda K, Katoh N: Increased serum levels of interleukin 33 in patients with atopic dermatitis. **J Am Acad Dermatol**, 70 (5), 882-888, 2014.
3. Asai J, Harada Y, Beika M, Takenaka H, Katoh N, Takamatsu T: Photodynamic diagnosis of metastatic lymph nodes using 5-aminolevulinic acid in mouse squamous cell carcinoma. **J Dermatol Sci**, 74 (2), 171-173, 2014.
4. Kan S, Konishi E, Arita T, Ikemoto C, Takenaka H, Yanagisawa A, Katoh N, Asai J: Podoplanin expression in cancer-associated fibroblasts predicts aggressive behavior in melanoma. **J Cutan Pathol**, 41 (7), 561-567, 2014.
5. Wada M, Horinaka M, Yamazaki T, Katoh N, Sakai T: The dual RAF/MEK inhibitor CH5126766/RO5126766 may be a potential therapy for RAS-mutated tumor cells. **PLoS One**, 9 (11), e113217, 2014.
6. Furue M, Onozuka D, Takeuchi S, Murota H, Sugaya M, Masuda K, Hiragun T, Kaneko S, Saeki H, Shintani Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Kitami Y, Tanioka M, Imafuku S, Abe M, Inomata N, Morisky DE, Katoh N: Poor adherence to oral and topical medication in 3096 dermatological patients as assessed by the Morisky Medication Adherence Scale-8. **Br J Dermatol**, 172 (1), 272-275, 2015.
7. Nakamura N, Tamagawa-Mineoka R, Ueta M, Kinoshita S, Katoh N: Toll-like receptor 3 increases allergic and irritant contact dermatitis. **J Invest Dermatol**, 135 (2), 411-417, 2015.
8. Kido-Nakahara M, Katoh N, Saeki H, Mizutani H, Hagihara A, Takeuchi S, Nakahara T, Masuda K, Tamagawa-Mineoka R, Nakagawa H, Omoto Y, Matsubara K, Furue M: Comparative Cut-off Value Setting of Pruritus Intensity in Visual Analogue Scale and Verbal Rating Scale. **Acta Derm**

Venerool, 95 (3), 345-346, 2015.

< 学会発表 >

1. Katoh N: Similarities and differences between American and Japanese guidelines for the management of atopic dermatitis. **73rd Annual Meeting of The American Academy of Dermatology**, San Francisco, USA, 2015. 3. 20- 24.
2. 加藤則人: アトピー性皮膚炎の最近の話題. **第30回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会**, 横浜, 2014. 4. 26- 27.
3. 加藤則人: アトピー性皮膚炎の治療の目標とゴール. **第113回日本皮膚科学会総会**, 京都市, 2014. 5. 30- 6. 1.
4. 加藤則人: 慢性皮膚疾患の治療のアドヒアランス向上を目指して. **第113回日本皮膚科学会総会**, 京都市, 2014. 5. 30- 6. 1.
5. 加藤則人: アトピー性皮膚炎とスキンケア. **第32回日本美容皮膚科学会総会・学術大会**, 浦安市, 2014. 7. 12- 13.
6. 加藤則人: 小児アトピー性皮膚炎の治療 - 親とこどもの心を動かすには. **第78回日本皮膚科学会東部支部学術大会**, 青森, 2014. 10. 4- 5.
7. 加藤則人: 小児アトピー性皮膚炎のアドヒアランスを高めるコミュニケーション. **第51回日本小児アレルギー学会**, 四日市市, 2014. 11. 8- 9.

H . 知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし